

第 2 回 カーボン・オフセット大賞 応募用紙①

応 募 者 に 関 す る 情 報

記入日： 2012年 12月 10日

応 募 者 情 報	
応 募 団体名	(フリガナ) シコクガス カブシキガイシャ (団体名) 四国ガス 株式会社 <small>※協働プロジェクトでの応募の場合は、代表団体名以下プロジェクトに参加している 主な団体名をご記入下さい。</small>
応 募 担当者 連絡先	団体名： 四国ガス 株式会社 所在地： 〒 790-0814 愛媛県松山市味酒町1丁目10-6 四国ガス第一ビル6階 部署名： リビング営業部 業用開発グループ 役職名： 氏 名： 田中 文章 TEL： 089-909-8733 FAX： 089-945-1201 E-Mail： tanaka@shikoku-gas.co.jp
ホームページ	http://www.shikoku-gas.co.jp/
応募団体の主たる事業（※行政の場合は、記入は不要。最大2000字入力できます。詳細は別紙添付可） <input type="radio"/> ガスの製造、供給および販売 <input type="radio"/> ガス器具の販売 <input type="radio"/> ガスに関する工事の請負 四国4県の県都を中心に9市4町の需要家に都市ガスを供給しております。	

第2回 カーボン・オフセット大賞 応募用紙②

応募するカーボン・オフセットの取組についての基礎情報 (1次審査での重点ポイント)

応募に関して、写真（JPEG 等）や概要図（PDF 等）は別途メール等で事務局までお送りください。

応募の際にいただいた資料は返却いたしません。あらかじめご了承ください。

※記述欄が不足する場合は、用紙の追加も可能ですが、応募用紙②全体で A4 用紙 3 ページ以内にまとめてください。

※第1回カーボン・オフセット大賞の1次審査を通過した事例一覧もご参照ください。

URL : http://www.carbonoffset-network.jp/award1st/entry_data1st.html

1. 応募するカーボン・オフセット活動の名称・タイトル

「しこくガスフェスタ2011」におけるカーボンオフセット
～CO₂を排出しないガス器具!??～

2. カーボン・オフセット活動の概要

<カーボン・オフセットの分類>

以下の4分類からひとつ選び、□に✓をつけてください。

- 商品使用・サービスオフセット
- 会議・イベントオフセット
- 自己活動オフセット
- 自己活動オフセット支援

【参考】

環境省による「カーボン・オフセット第三者認証基準(Ver.1.1)」に基づく分類

<http://www.jcs.go.jp/pdf/document/kijun.pdf>

<カーボン・オフセット対象・バウンダリ>

- ・「しこくガスフェスタ2011」の会場にて使用した電気とLPガスから発生するCO₂排出量
- ・「しこくガスフェスタ2011」で販売したガス器具を1年間使用した場合のCO₂排出量（推測値）

<カーボン・オフセットの取組の実施期間>

2011年11月26日・27日（しこくガスフェスタ2011開催日）

<カーボン・オフセットの取組に関する情報提供方法>

イベント開催県である香川県の弊社顧客全員を対象に、毎月のガス検針票と一緒にイベント案内チラシ（別添①）を送付。その中で、カーボンオフセットの取り組み内容を明記。その他、下記 URL にて紹介。

カーボンゼロ四国

<http://www.carbonzero-shikoku.jp/carbon/support/2011/12/-vol2.html>

四国地域国内クレジットネットワーク会議（ECO₂四国）

<http://www.eco2-shikoku.org/offset/index.html>

四国経済産業局

http://www.shikoku.meti.go.jp/soshiki/skh_d2/1_sesaku/111101/111101.html

国内クレジット制度

<http://jcdm.jp/examples/index.html>

3. 1次審査項目

①自らの行動に伴う温室効果ガスの排出量の認識

■電気使用量・ガス使用量

消費エネルギー量・・・会場運営会社から提供された実測値。

CO₂ 排出係数・・・電気→国内クレジット制度の方法論で定める購入電力の限界電源係数：0.55kgCO₂/kWhを引用。

LPガス→国内クレジット制度の方法論で定める排出係数から算出した係数：3.00kgCO₂/kgを引用。

算式（別添②）より、2tをオフセット。

■ガス器具（1年間）

ガス器具を調理・温水・暖房・温水暖房の4種類に区分し、各機種の1年間におけるCO₂ 排出量を想定算出。

年間負荷・・・文献より引用。

【参考文献】 省エネ性能カタログ（資源エネルギー庁発行）

ガス石油機器販売事業者表示制度

住宅事業建築主の判断におけるエネルギー消費量計算方法の解説

CO₂ 排出係数・・・LPガス→国内クレジット制度の方法論で定める排出係数から算出した係数：3.00kgCO₂/kgを引用。

都市ガス→弊社ホームページ公表値：2.9kgCO₂/m³を引用。

器具熱効率・・・各メーカー現行機種における平均エネルギー消費効率。

算式（別添②）より、82tをオフセット。

上記、算式をカーボンフリーコンサルティング㈱にて確認、（一社）カーボンゼロ四国にて償却。

②排出削減努力の実施

取り組まれた排出削減努力について該当とする取組に✓をつけてください（複数可）。なお、取組のアピールも含めた詳細については、応募用紙③「1. CO₂ 排出削減努力と関係者の理解や協力」に詳しく記載して下さい。

節電 節水 廃棄物の減量化 省電力機器の導入 公共交通機関の利用・呼びかけ

その他（具体的に

）

③オフセットの手続き

<カーボン・オフセットに利用したクレジット等の種類>

国内クレジット（四国クレジット）

四国クレジットとは・・・

四国内の自治体や企業等により創出された国内クレジットのブランド名。

当ブランドは、四国経済産業局が運営する四国地域国内クレジットネットワーク会議（ECO₂四国）にて創設。

各県ごとにその県の名産とかけあわせたネーミング（例 愛媛県：愛媛オレンジクレジット）となっており、

四国内の2つ以上の県から創出された国内クレジットを四国クレジットとしている。（別添③参照）

<カーボン・オフセットに利用したクレジット等のプロジェクト名称>

ボイラー設備の更新および天然ガスへの燃料転換（A重油→都市ガス）

<カーボン・オフセットに利用したクレジットの無効化に関する状況>

償却日：平成24年1月10日（別添④参照）

第2回 カーボン・オフセット大賞 応募用紙③

応募するカーボン・オフセットの取組についてアピールポイント (本審査での重点ポイント)

応募に関して、写真（JPEG 等）や概要図（PDF 等）は別途メール等で事務局までお送りください。

応募の際にいただいた資料は返却いたしません。あらかじめご了承ください。

※記述欄が不足する場合は、用紙の追加も可能ですが、応募用紙③全体で A4 用紙 4 ページ以内にまとめてください。

※第1回カーボン・オフセット大賞の1次審査を通過した事例一覧もご参照ください。

URL : http://www.carbonoffset-network.jp/award1st/entry_datalist.html

1. CO2 排出削減努力と関係者の理解や協力

- ①CO2 排出削減努力の項目（内容）について、期待した効果とその成果について具体的かつより定量的にアピールしてください。
- ②CO2 排出削減努力の必要性・重要性について関係者の理解と協力を得るにあたっての工夫とその成果をアピールしてください。

弊社は、主に天然ガスを供給・販売する会社であり、平成22年度に低カロリーガスから高カロリーガス（天然ガス）への転換が完了したこともあり、近年では油から天然ガスへの燃料転換が営業活動の柱となっております。

燃料転換によるCO2削減効果は大きく、A重油から天然ガスへ転換した場合、約25%の削減効果が見込まれます。2011年度においては、約3,000klのA重油が天然ガスへ転換し、そのCO2削減効果は、約2,300tCO2となります。

CO2排出係数では油より優位性をもつ天然ガスですが、四国という地域特性上、全エリアを導管供給できず、各主要都市にサテライト基地を設置して供給しているため、他地域と比較して価格が高い傾向にあります。その価格は基本的に油より高価であることが多く、導入事業者の皆様には、ランニングメリットよりも天然ガスのもつ環境優位性を重要視頂いております。

2. カーボン・オフセットの内容

- ①自らが行うカーボン・オフセットの取組の意義・重要性について、社会にもたらす波及効果などの観点も踏まえてアピールしてください。
- ②自らが行うカーボン・オフセットの取組の継続性、展開への意欲や見通しについてアピールしてください。

- 「しこくガスフェスタ2011」の会場にて使用した電気とLPガス※1から発生するCO2をオフセット
- 「しこくガスフェスタ2011」で販売したガス器具を1年間使用した場合に発生するであろうCO2をオフセット※2
ガス器具購入者に対してカーボンオフセット証書を発行

当イベントをキッカケに、自社の他イベントや協賛イベント等にも、積極的にオフセットを取り入れていく考えです。
また、ガス器具から排出されるCO2量を1年間としたのも、当イベントは毎年開催しており、その都度オフセットを取り入れるためです。（2012年度でも同取り組みを実施）

- ※1 「しこくガスフェスタ2011」は四国ガスグループが主催であり、弊社（四国ガス㈱）は天然ガスを供給・販売しておりますが、グループ会社である四国ガス燃料㈱がLPガスを扱っております。
- ※2 ガス器具販売金額には、国内クレジットの購入金額を転嫁せず、すべて弊社負担で国内クレジットを購入しております。

3. 環境、地域・社会、産業振興等の貢献性

次の①～④のいずれか（複数可）の観点での貢献性についてアピールしてください。

- ①自らが行うカーボン・オフセットの取組から波及する河川・湖沼をはじめとする内水面や土壌・大気あるいは生物多様性といった自然環境への配慮や保全などの環境の面での貢献
- ②自らが行うカーボン・オフセットの取組から波及する地域・社会への経済的便益や効果、第1次産業と他産業との連携促進、地域活性化や一村一品活動の拡大などの地域・社会の面での貢献
- ③自らが行うカーボン・オフセットの取組から波及する中小企業振興や産業基盤にとって重要な安定的なエネルギー供給・確保、環境と調和した市場の牽引などの産業振興の面での貢献
- ④自らが行うカーボン・オフセットの取組から波及する国際貢献等、さまざまな面での貢献

今回利用した国内クレジットは、四国内企業におけるボイラーの更新および燃料転換（A重油→天然ガス）から創出されたものであり、国内クレジットの売却益は、設備更新の補助となるため、企業側の設備投資の負担軽減に貢献します。

また、当クレジットは一般社団法人カーボンゼロ四国を介して購入しました。当財団には買い手の見つからない多様多種の企業から創出された国内クレジットが預けられており、このような取り組み実績を作ることで、市場の活性化が図れると考えております。

4. 普及啓発の創意工夫とその成果

- ①自らが行うカーボン・オフセットの取組について第三者である市民に伝え、理解者の裾野を広げ巻き込み、「自分ごと化する」ために行った創意工夫（イベントの開催やツールの開発等）についてアピールしてください。
- ②人々や社会に与えた影響（行動様式や考え方の変化）について、実際に得られた反響も踏まえてその成果をアピールしてください。

■ ガス器具（1年間）

（啓発手法）

- ・ガス器具を購入されたお客様一人一人に対して、「カーボンオフセット証書」（別添⑤）を発行。
- ・イベント会場内にて当取り組みの説明パネル（別添⑥）およびステッカー（別添⑦）を掲示。

（成果）

当イベントの来場者数は約40,000名であり、ガス器具購入者は約350名。その購入者一人一人にオフセット証書を手渡しで配布することで、カーボンオフセットに対する認知度の確認や啓蒙活動が行えました。（別添⑧）

認知度に関しては、約9割以上の方が認知されていない状況だったため、啓蒙という面では成功であったと感じました。

後日、弊社の上部団体である日本ガス協会より、当取り組みについてヒアリングを受けました。

当取り組みに非常に興味を持っておられ、今後ガス業界全体として、オフセットの仕組みを積極的に導入または推奨していくという前向きな姿勢から、今後の波及効果に期待を感じました。

5. ストーリー性

- ①自らが行うカーボン・オフセットの取組についての「魅力」「面白さ」「ユニークさ」などをアピールしてください。
- ②こうした「魅力」「面白さ」「ユニークさ」について、それを第三者である市民に伝えるために行った創意工夫についてアピールしてください。また、低炭素社会の実現にどのように貢献しているのか、アピールしてください。

弊社はエネルギー供給会社であり、日頃よりエネルギーのもつ環境性を消費者の方々にPRしております。しかし、中には誤った知識を持つ方々もおられ、環境に対して高い志を持っていても、最適なエネルギーの選択ができていないという事象も少なくありません。そこで、意識向上の次のステップとして「エネルギーに関する正しい知識の習得」が低炭素社会へ向け必要不可欠なファクターであると感じており、それを波及することがエネルギー供給会社としての責務と考えております。

「しこくガスフェスタ2011」を波及の舞台として選定したのは、弊社イベントの中で最も多い集客数が見込めるためと、ターゲットが一般消費者であるためです。人が物事を正しく、深く理解するにはまず疑問を持つことが重要であるという考え方のもと、エネルギーから発生するCO₂をゼロにする「オフセット」を取り入れることで疑問を生じさせる仕組みを考えました。

「CO₂を排出しないガス器具」をうたうことによって、「ガス器具はCO₂を排出します！」とマイナスイメージを前面に押し出しているように捉えられますが、逆に一般消費者の興味を惹きつけるところができ、中には「ガス器具ってCO₂が発生するの？」という疑問を持つ方もいれば、「では、どのくらいの量を発生するの？」「ガスは他のエネルギーと比べてCO₂は多いの？少ないの？」「火力発電で発電した電気とどちらが多くCO₂を発生するの？」など多種多様な疑問を引き出すことができました。

使用した排出削減権は、四国内企業が天然ガスを利用した削減プロジェクトによって創出した国内クレジット（四国クレジット）であり、自らの販売商品である天然ガスを用いて国内クレジットの創出を促し、成果物を弊社が利用、償却することで、一連のサイクルを構築しました。

低炭素社会への実現には、オフセット市場の活性化が必要であり、それにはまず一般消費者に対してオフセット自体の付加価値を認識させることが最重要と考えております。今回の取り組みの中で、カーボンオフセットに対する価値の見える化として、ガス器具購入者にカーボンオフセット証書を発行したことは、啓蒙活動として大きな効果を得たと感じております。

以上に記載された取組について別途説明資料がございましたら、PDFの場合はメールでお送りいただくか、現物資料を郵送ください。

また、公開可能な商品・サービスの様子がわかる写真を（JPEG等）お送りください。

第2回 カーボン・オフセット大賞 応募用紙一式 送付先およびお問い合わせ先

カーボン・オフセット推進ネットワーク事務局

（担当：入山、井上）

〒東京都港区芝公園 3-1-8 芝公園アネックス 7階

電話 03-5776-1223 ファックス 03-5472-0145

E-Mail award@carbonoffset-network.jp